

「参加型読書会 Active Book Dialogue」をオンラインで開催

書籍『看護のためのファシリテーション』の読者と著者が交流

2020年10月31日(土),『看護管理』編集室企画のイベントとして,「参加型読書会 Active Book Dialogue」をオンラインで開催しました。

ABD の手法とは

Active Book Dialogue (以下, ABD) とは, 経営者の竹ノ内壮太郎氏が開発した手法で, あらかじめ書籍を読まなくても参加でき, 1冊の本を参加者が力を合わせて読破する形式の読書会です。

参加者は割り当てられた担当ページを読んで, 数枚の用紙(またはパワーポイントなどのスライドデータ)に内容を要約します。それを持ち寄り, 「プレゼンリレー」として参加者間でページ順に内容を共有していきます。

1冊の本を「分担して読んでまとめる／発表・共有化する／気づきを深める対話をする」というプロセスを通して, 著者の伝えようとすることを深く理解でき, 能動的な気づきや学びが得られます。また, ABD では書籍を読破するだけではなく, 感想を共有し合ったり, 読んで感じた共通の問いを深め合ったりする時間も持ちます。グループでの読書と対話によって, 1人ひとりの能動的な読書体験を掛け合わせることで学びはさらに深まり, 新たな関係性が育まれてくる可能性も広がる, というものです。

自分では思いもしなかった読後感を他

者が語ることもあり, 多様な視点や価値観に気づく機会にもなるため, 病院看護部の組織開発や人材育成の手法としても採用できそうです。

著者, 読者が交流を深める

今回の ABD は, 「著者, 参加者と一緒に読み, 語り合おう! 事前に本を読まなくても参加できる読書会!」のコンセプトのもと, 本誌連載を再編・加筆して昨年出版された『看護のためのファシリテーション—学び合い育ち合う組織の作り方』を課題図書として開催。病院勤務の看護職を中心に約30名が参加しました。

ファシリテーターとプログラム構成を, 組織開発ファシリテーターの丹羽妙氏に依頼したほか, 書籍の著者である中野民夫氏(東京工業大学), 浦山絵里氏(ナースファシリテーター)をゲストに迎えた。充実したプログラムのもと, 読者と著者に直接交流していただく機会になりました(表1)。当日の雰囲気を参加者の1人, 看護師でイラストレーターの三谷朋さんに描いていただきました

看護のためのファシリテーション



(次ページイラスト)。

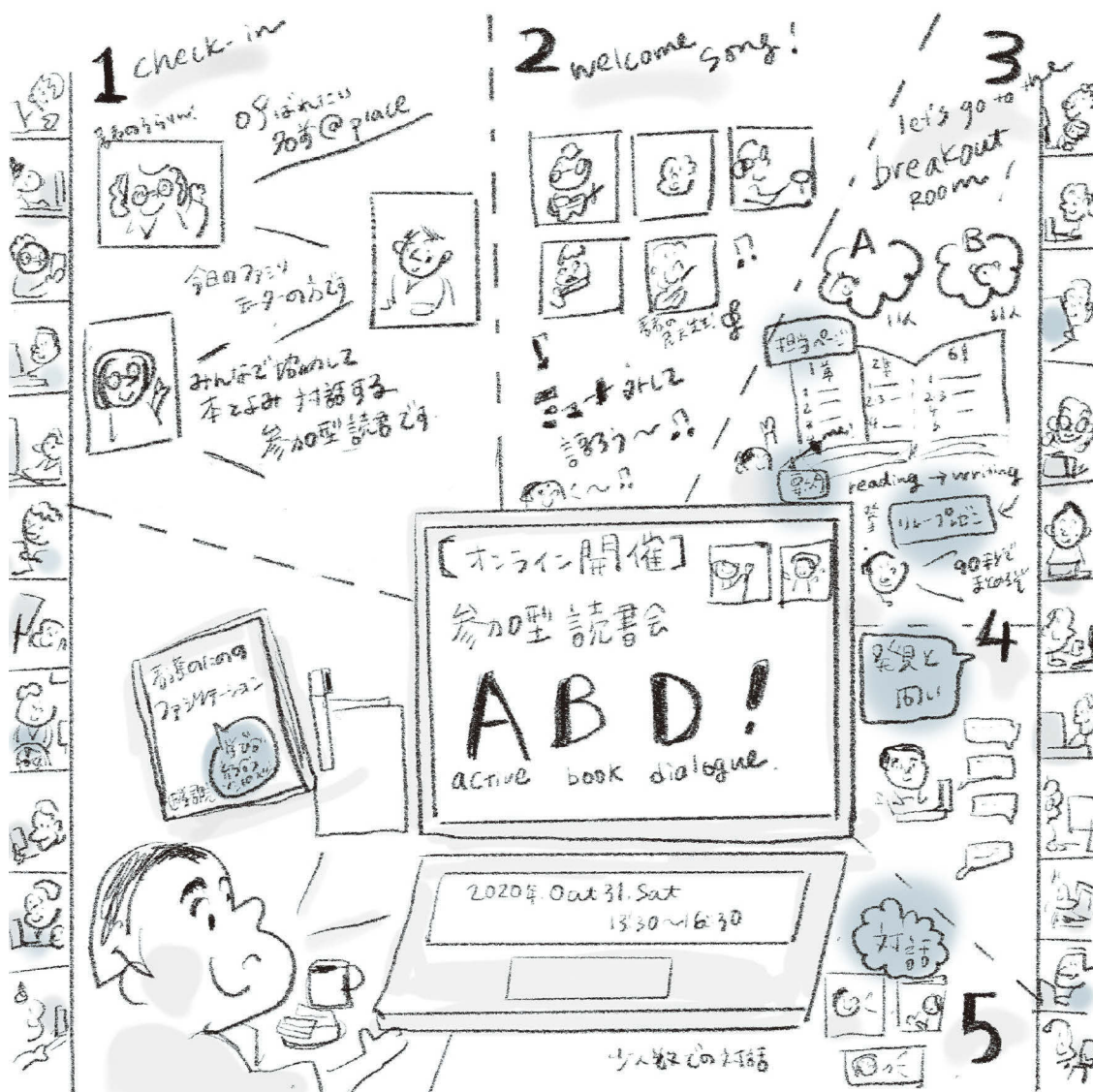
コロナ禍のためオンラインでの開催(オンライン会議システム「Zoom (ズーム)」を使用)となりましたが, 各参加者はオンライン上の共有スライドに担当ページを要約しプレゼンリレーをスムーズに行うなど, 無事に終了しました。

表2 参加者の感想(一部抜粋)

- ABD では, 自分1人で読んだ時より理解が深まり, 書籍の内容を実際の仕事と関連付けて考えることができた。
- オンライン研修の新たな可能性を知る貴重な時間になった。初めての ABD だったが, 全体のスタイルがシンプルで取り組みやすかった。「読み終えた!」とまでは行かなくても, 概要が把握でき, 深めたい箇所が明確になった。
- 著者の話を直接伺い, 思いが肌に伝わり, 学びが深まった。
- ファシリテーションの素晴らしさを再認識し, 小さなことから現場で使っていこうと思った。
- マインドフルネスを体験し, 自分自身を大切にしようと思った。自身が生かされていることに感謝しようという気持ちになった。
- 運営も含めてファシリテーションデザインを学んだ。改めて, ファシリテーションには思想や哲学が関わっていると実感した。
- どんなことがあっても大丈夫! という雰囲気がよかった。安心して参加できた。

表1 プログラム

- オリエンテーション, チェックイン
- Active Book Dialogue (ABD)
- 感想のシェア
- 休憩
- マインドフルネス体験
- 参加者間でのダイアローグ
- まとめ:「私のファシリテーション3か条」作成



イラストレーション：アトリエトリッシュ 三谷朋

NA REPORT

コロナ禍での対話の重要性

課題図書『看護のためのファシリテーション』は、対話と支援を大切にする「ファシリテーター型リーダー」のありようや、対話を重視した組織づくりの方法をお伝えする書籍です。不確実な中での意思決定やこれまで以上のチーム

ワークが求められるコロナ禍の今こそ、大切にしたい視点がたくさん詰まった1冊です。

そうした書籍の趣旨や、丹羽氏、中野氏、浦山氏の穏やかで受容的な進行も相まって、参加者からは、「心地よい場になっていました」「参加者に優しい運営だと思いました」などの感想が聞かれました。そのほかの感想については表2

をご参照ください。コロナ禍で対話の機会が求められており、編集室では今後も対話型の企画を開催する予定です。

なお、ABDについて、より詳しく知りたい方は下記のウェブサイトをご参照ください。<http://www.abd-abd.com/>（アクティブ・ブック・ダイアログ協会）

（本誌編集室）